

---

# 桜花学園物語

仁義

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桜花学園物語

### 【Zマーク】

Z29860

### 【作者名】

仁義

### 【あらすじ】

それはたつた一本の電話から始まった。

これは、とあるバカ親父のせいである意味とんでもない学園に入学させられた俺「後藤美栄」のその学園におけるハチャメチャな日常を描いた物語である！

王花学園物語・始まり始まり～（て最後ぐらい）眞面目に締めりよ～・

boy主人公）

## プロローグ～始まりは、たった一本の電話～（前書き）

またやってしまった…………なぜいつもこつも考へ無しに新しい小説を投稿してしまうのか…………こんな作者ですが、どうか見捨てず応援よろしくお願いします。

## プロローグ～始まりは、たった一本の電話～

それは、たった一本の電話から始まった。

said主人公

「はあー…うょっとまで、今なんて言ったクソ親父！」

「なんだ？しばらく会わんうちに耳が悪くなつたか？まあいい、な  
うもつ一度言つたわ……

実はな、

お前の進学する高校だが……

俺が勝手に決めちまつた（笑）

俺こと『後藤美栄』高校生活は、こんなふざけたバカ親父の電話から始まった……

プロlogue 始まりは、たつた一本の電話

美栄「おいこらどういう事だ、このバカ親父！なんてめえに俺の進学高校を決められなきやならん！」

親父「それは…………まあ、あれだあれ、ちょっととし「ちょっととしたノリとか言つなよ（怒）」すいません話だけでも聞いてください（泣）」

美栄「ちつ……いいだろう、ただし下らん理由だつた場合は解るな?」

親父「ハイイイ！解つております！」

美栄「よし、では説明しろ」

親父「あ、ああ実はな」

と、言ひ訳で親父の説明を聞いたところ。

親父とその（俺が進学する高校）学園の学園長は知り合いで、少し前に親父にその学園長と久々に会つて会話をしていたら俺になつた俺のことを聞いた学園長が俺を自分の学園に来させないかと誘う親父がそれを承諾（理由はそれを知つた時の俺の反応が面白そつだつたから）  
とこつことらしく……

美栄「…………って、やっぱじてめえのせいじやねえかあああああ  
！」

親父「す、すまん、まさか本当にやるとは…………」

美栄「本心は？」

親父「面白そつだから承諾した、反省も後悔もしていないつー！」

美栄「よし、居場所教えろ」ますぐ殴りにいく（怒）

親父「すいません、許して下さる美栄様」

美栄「ちつ、たく…………調子いいんだから…………わあつたよ、  
もう決まつちまつたんなら文句のつけよつも無いしな。  
いいぜ、いってやるよその学校」

親父「ほ、本当かー？」

美栄「ああ、丁度平凡な日常に飽きてきた所だからな、今回だけ特

別だ。

で？そこなんて学校なんだ？」

さすがに名前すら知らん学校なんぞにはいけないからな。

親父「あ、ああ聞いて驚け」「

～この時俺はまだ知らなかつた

親父「その学校はな

～その学校に行くことが、俺にとってある意味最悪で～

親父「王花学園つてこうといひだ

～ある意味最高な出来事であることを～

## 第一話～自宅到着・驚愕連続～

s a . i d 美栄

美栄「さて、ここがこれから俺が住む場所か…………」

あのバカ親父との電話から一週間、俺は今、俺が転校する学校『王花学園』がある町『光花町』にある自宅へと向かっている

「やれやれ、なんであのバカ親父は…………ん？」口を右…………は？」

はつきり言おう、今俺は眼を疑っている、なんせ俺の目の前には「豪邸」という言葉を5、6倍位にしたレベルのバカでかい家があるのでから

「…………親父、あんたなんて無駄な土地と金の使い方してんだよ…………」

~~~~~

呆然としていると俺の携帯着信音が鳴り響く

「（ペッ）はい、もしもし（いかん、家の『テカ』による衝撃でうまく応答でき）「もしもし、美栄か？俺だが」（前言撤回…）おひ口ラ親父いいいい！」

「つぬつーな、なんだよいきなり」

「なんだじゃねえだらうがーなんだよあの家ー」

「ん? 気に入らなかつたか? ちゃんとお前の好みに」そういう問題じゃねえよ」へ?」

「なんだよあのバケモン並の『テカセバ』..」

「ああ~その事な、実は~や~..... ちょっとね美栄に頼み事があるんだけど」

「あん? なんだよ」

「うん、実はね..... ちょっとと居候させて欲しい人が」

「居候?」

「うん実はさ、以前言つた学園長に.....

「あ~それと実はねえ、ちょっと頼み事があるんだけどいいかい?」

（回想）

美栄の進学先が桜花学園に決まった後

「あ~それと実はねえ、ちょっと頼み事があるんだけどいいかい?」

「へ? はい、別に構いませんよ」

「あんたに断るつていつ選択肢は無いのかい..... まあいいさね、実はね、うちの学園の学生寮が随分老朽化してきてさ、新しい寮を建てるまで、あんたの息子が住む家に居候させてくれない

かい？」

「なんだそんなんですか、構いませんよ、美栄なら」承してくれると思いますから

「そ、うかい？ じやあ頼んだよ」

「はい！」

回想終了

というわけなんだけど

「親父」

「ん？」

「は、はい！申し訳ありませんでしたあああああ！」

「わあつたよ、引き受けいやひひじやねえか」

「へ？ いいのかい？」

「いいもなにも、もう決定事項なんだろ？なら今更言つても仕方ないさ、ただ、もう」うつうつ事は無によつてしてくれ、一言でいいから俺に報告するよつて」「元に

「わ、わかつたよ、すまないね」

「ああ、で？」この家にはあと何人来るんだ？」

「あ～悪い、ちょっと時間の関係でかぞえ切れなくてや」

「了解、だいたい理解した、聞き方を変えよつ、あんたから見て何人くらいいた？」

「え～っと、だいたい……………学園のクラス2つ分以上はいたかな？」

「……………」

「このバカ親父は……………」

「ん？ どうしたの？」

「はあああああ～～～～～～～～～～～～～」

「なに考えてんだよ～～～～～～～～～～～～～」

} 次回に続く }

第一話～自宅到着・驚愕連続～（後書き）

次回から原作キャラ登場です

## 主人公設定（前書き）

主人公設定です

## 主人公設定

後藤義秀

容姿・銀髪黒眼・容姿イメージはスパロボOGのリュウセイ  
服装・ジャケット等の羽織る系の服が好み

年齢・15歳

CV・三木眞一郎

性格・割りと礼儀正しく温厚、ただし一度熱くなるとけつこうはつ  
ちやけるタイプ

立場・桜花学園2ーF所属・荒木寮（つまり自宅）寮長（よつは家  
主）

武器・拳、トンファー

備考

今学期から桜花学園に転校してきた一年生

父親が冒険家で幼少時からよく引っ張り回されてきた（父曰く「引  
っ張られたのは実質俺」）そのためかなりの冒険やチャレンジ好き  
で「まだ誰も」等のワードに敏感に反応する（ただし、立場はツッ  
コミ（不動））

実は数年前に何回か光花町に来たことがあり、その時結構な人数と  
友達になつた（この時点で数人落とした（無自覚））

趣味は散歩と武術の鍛錬、歌う事である

尚、歌はプロ級で、歌に合わせて声を変える特技がある

武術の腕は最強クラスで、百代（マジ恋）や恋（恋姫）と互角かそ  
れ以上

更にはかなりのカリスマ性もあるという完璧超人

嫌いな物は暗闇と地震や雷等の自然災害

食べ物なら苦い物全般と和菓子、餅等である

一言・「主人公として頑張つていくからよろしく頼む、尚、冒険の  
気配がしたらすぐに俺を呼ぶように！」



第一話～居候第一団（初原作キャラ）登場～（前書き）

いつもお久しぶりに投稿します美仁です

## 第一話～居候第一回（初原作キャラ）登場～

s a i d 美栄

さて、親父の話によると、居候する奴らは何日かに分けてくるらしい（まあ一日何人来るかは解らんが）

という訳で現在俺は、この家の自分の部屋でくつろいでいる

「しかし、一体何人来るのかねえ」

ほんとに親父は一体何を考えているのやら…………（ブ  
――――ン、キキ――――）ん？ 来たみたいだな、さてはて、一体  
どんな奴が来るのや？…………まあ確実に「あいつ」よりはま  
しだらうが…………

s a i d — — —

その頃、美栄の家の前に「桜花学園」と側面に書かれた小型バスが  
止まり、中から数人の生徒と見られる者達がてきた

「うわーー、なんつうかスゲー家だな」

「こやーとなんでもない家やな、ナギの家と回じ位わからん?」

「本当に凄い家なの〜寮がなくなる〜聞いた時はどうしようかと思つたけどある意味ラッキーなの〜〜」

「しかしいいのだらうか、いくら寮が建て直しされるとはこえ、見ず知らずの人の家にやっかいになるところは…………」

「別にいいんじやない?だいたい遠慮なんてしてたら住む場所なくなるよ?」

「本当に凄い家だね〜詠ちゃん」

「ほんとね(〜こいつがどこの誰よ)んなバカでかい家建てたの」

「凄いのはこいけど、車の中ですっと待つてだからお腹すいたよ〜」

「もう季衣、朝にたくさん食べたでしょ」

各自この家の感想を述べながら驚いているようである

「〜こいつが〜んなでかい家に住んでる奴ってどんな奴なんだ?」

「あいつとナギちゃんみたいに偉そつとしてる人に違いないのぞ」

「お〜沙和、その言い方だと私が偉そつとしてるよつて聞いじれるぞ」

「まあまあ、凪先輩、名前同じなんだから仕方ないじやん」

「でも本当にどんな奴なのかしら？こんなバカでかい家に住んでる位だから、案外沙和の言つてることも当たりかもしないわよ」

と、こんな感じで、今度は家の主について話し始めた

「でも本当にどんな人なんで「こんな人だよ」え？」

突然家の方から声が聞こえ、皆が一斉にそちらを振り向く

ギギィイイイイ——

それと同時に田の前の家の扉が開き、中から女子生徒達と同い年位の少年が出てきて

「おへ、お前らが親父の言つてた居候の奴らか？」

そう、女子生徒達に聞いた

s a . i d 美栄

「おへ、お前らが親父の言つてた居候の奴らか？」

家から出て早々、俺は家の前にいる少女達にそう言つた、少々失礼

な言い方かもしぬないが、まあいいだろ？

「あ、ああ、確かにあたし達がそうだけじゃ…… あのお前  
は？」

「俺か？まあとつあえず、ここはの家主（仮）の後藤美栄ってんだ、  
よろしく頼むぜ」

『え…………えええええ~~~~~！』

「どわつ……こきなりでかい声出すなよ

「誰だつてこいつは反応するわよ……」

「やうか？」

「あの…………」んな大きな家に一人暮らしつてこいつのは、さす  
がに驚くと思いますよ」

あ～成る程

「ま、確かにそりゃそりゃ、俺も昨日は驚いたし……

「は？ 昨日？」

「ああ、俺ちよつと前まで他の場所にいてた、ここは来たのは昨日  
なの、ついでに言つと居候のことを見ついたのも昨日」  
たくつあのバカ親父め

「…………なんていつか、あんたも大変みたいね」

わかつてくれる奴がいてくれて良かつたよ

「まあな、で、やうやう皿口紹介とこいつが、改めて、俺は後藤美栄、よろしく頼む」

「じゃああたしから、あたしは馬孟翠、よろしくな  
一人目に挨拶してきたのは茶色の髪をポニーテールにした活発そつ  
な美少女

「馬孟蒲公英、よろしくね」

次に馬孟…………名字同じだから翠でいいか、翠と同じ名字で  
こちらは少しき供つぽい少女

「樂文皿です、よろしくお願ひします」

銀髪で身体の所々に傷がついた少女

「つのは李成真桜や、よろしく頼むで」

紫髪で関西弁の少女

「沙和は子則沙和なの、よろしくお願ひするの～～  
眼鏡をかけて髪飾りを付けた少女

「僕は許仲季衣！よろしくね、美栄の兄ちやん  
桃色の髪で無邪氣つぽい少女

「私は典斧流々といいます、よろしくお願ひします  
水色つぽい髪で礼儀正しい少女

「董穎月です、これからお世話になります  
銀髪で儂げ、といつ表現が似合つ少女

「賈文詠よ、月共々世話になるわ

緑色の髪で眼鏡をかけた.....なんか苦労人つぽい少女  
しかし、なんで女子ばかりなんだ？

「ああ、よろしく頼む、しかしすまんな、その反応だとまさか家主  
が同学年だと今知ったんだろ？」

「まあね、結構若いつて聞いてたけどまさか同年代の人間だとはね

「（はあ、あのバカ親父め（プチ怒））ほんとにすまんな」

「別に構いませんよ、同年代の方方が話し安そうですし」

「そう言つてくれると助かるよ、まあ立ち話もなんだし、荷物も置  
きたいだらうからな、とりあえず上がっててくれ、部屋に案内する」

『よろしく（頼む）（お願ひします（なの～））』

「へへ、中も凄いんだね～」

「どういひへどこつても、俺も昨日来たばつかだから、全部の場所把握してゐる訳でもないけどな」

「ホントに、何を思つてこんなデカイ家建てたんだか……  
……はあ、まあいいか

「とつあえず、部屋はあつちだから、適当に選んでくれ」

『はー(ああ)(ええ)(なの~)』

とまあ、一田田はいんな感じだった…………はあ(ため息)て  
いつか、なんで全員女子なんだよ…………  
一田田にしてこきなり不安を感じる俺であった

## 第一話～居候第一回（初原作キャラ）登場～（後書き）

なんか、あつさり終わってすいません  
これから数話はこんな感じだと思います

尚、今回から初登場したキャラの設定を簡単に紹介します

馬孟翠

所属・桜花学園高等部1～F・武道部

紹介

明るく活発、そして純情と絵に書いたようなスポーツ少女  
その性格のせいか、男子より女子に人気がある

馬孟蒲公英

所属・桜花学園中等部3～F・武道部

紹介

翠の妹

翠とは違い、悪戯好きな小悪魔系の性格

人をからかうのが大好きで、一番の対象は高等部一年の魏文焰也

樂文凪

所属・桜花学園高等部1～F・武道部

紹介

かなり真面目で真っ直ぐな武道少女

先輩である川神姉妹を尊敬しており、現在強くなるために鍛錬の毎

曰である

李成真桜

所属・桜花学園高等部1—F・工学部

紹介

機械が大好きでいつもカラクリの研究ばかりしている機械系少女である

ただし今まで開発したカラクリの成功例はあまりない

于則沙和

所属・桜花学園高等部1—F

紹介

オシャレに心血を注ぐ生粋のオシャレ好き  
最近では読モを始めたらしい

董仲月

所属・桜花学園中等部3—F

紹介

かなり儂げな容姿が人気のメイド服が異常に似合つ少女  
詠、恋、聖（華雄）の幼なじみ

賈文詠

所属・桜花学園中等部3—F

紹介

一言で現せば「シンデレ」な少女

幼なじみの月を溺愛しており、月に近づく男を24時間警戒している

許仲季衣

所属・桜花学園中等部1年F・武道部

紹介

大食い、と言うより、食べるが人生という感じの少女  
同じクラスの張翼鈴々とはケンカ友達

典斧流々

所属・桜花学園中等部1年F

紹介

料理が得意で料理人を目指して現在修業中の季衣の親友で幼なじみ  
高等部一年の荒木優沙に好意を抱いている

こんな感じですね、流々の紹介に出てきた名前はオリキャラです  
では、次回もお楽しみに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2986o/>

---

桜花学園物語

2011年10月7日02時20分発行